

# 業務部速報



No. 104

発行 20. 3. 18

JR東労組 業務部

バス関東  
第8号

## 2020年度賃金引き上げ等に関する申し入れ 第1回交渉(趣旨説明)を行う!

バス関東本部賃上げ  
交渉スタート!

### 組合

- ・第3四半期収支実績は、営業収益は高速線における台風・大雨等の災害による減収だが一般線においては2,900万円増の102.5%、また、貸切・旅行業の増収もあり、運輸収入は2,600万円増の100.3%、営業収益も前年比100%を確保した。
- ・収入の確保は要員が不足する中、日々の安全・安定輸送の完遂のみならず、自らが被災する組合員もいる中で災害時の代行輸送対応など、職責をこえた組合員の奮闘の賜だ!
- ・職場では、新型コロナウイルスの予防について自己管理に徹し、要員不足の課題が解消されない中、休日出勤や圧縮行路等で業務を遂行している。点呼執行者や車両係も同様に奮闘している!また、感染への恐怖、感染した場合に長期間、病欠や年休になること、無給になることへの不安を持ちながら業務をしている。組合員の不安解消を求める!
- ・物価上昇、保険料率の上昇、消費増税等がある中でも生活維持向上をさせるために賃金引き上げ、また、賃金カーブの維持向上分として定期昇給の確実な実施を求める!
- ・連続する重大事故・事象が発生する中、安全を確保し、社会インフラとしての使命を果たし会社の発展を実現するには、賃金の引き上げをベースにシニアから若手組合員までの労働条件・環境に対する不安の早期解決が必要と考える。
- ・社員は不安な中、仕事している。光が見えるといい。モチベーションを上げてほしい。
- ・台風の大雨被害の中で代行輸送を含めて、グループ一体となってバス関東の組合員・社員が奮闘した結果、ここまでの収益確保が出来た。

### 会社

- ・ベースアップについては、2014年度から累計で2,900円。新制度社員の昇級基礎額は2017年度から累計1,200円、55歳の基本給加算が昨年5,000円、その他技能手当・職務手当・別居手当を2017年度に実施している。
- ・新型コロナウイルスの影響が日々大きくなっている。それに併せてインバウンドが大きく減少している。その中でも草津線の湯めぐり号はお客さまに利用いただいている。
- ・路線全体は、対前年は大きくマイナスとなっている。高速線についても、乗車実績が約半分になっていて厳しい状況である。
- ・2月の単月の営業損益がマイナス8,000万円だった。対前年で見るとマイナス1億円になる。ベースアップなので、今年度の収支が直結するものではないが、中長期的な見通しを踏まえて考えていかなければならない。
- ・社員の年齢構成にばらつきがあり、人件費は増えていくのが前提になっている。また、昨年10月から契約社員の社員登用の早期化を行っていることも人件費の負担である。
- ・1月までは台風の減収が大きく影響したが、前年度と同様の累計を維持できていた。そこに対する社員の踏ん張りや両毛線の代行輸送への尽力についてお礼を申し上げたい。

要員不足や、取り巻く情勢への不安を抱える中で収入の確保のために奮闘している組合員へ満額回答で応えるべきだ! 第2回交渉は3月24日!